

令和5年度 事業報告

社 会 福 祉 法 人 天 光 会
特 別 養 護 老 人 ホ ー ム 恵 光 園
短 期 入 所 生 活 介 護 事 業 所 恵 光 園
デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー 恵 光 園
居 宅 介 護 支 援 事 業 所 恵 光 園
ケ ア ハ ウ ス 恵 光 園

【法人理念】

～Precious one～

人との出会い・つながりと・そのふれあう環境、共に過ごせる時間を大切にします。

【法人目標】

「お客様主体の実践」～相手の立場に立って、相手を想う気持ちをカタチにする～

- 1) オーダーメイドスタイルの実践
 - ・『個別性』を活かし、その人の日々の人生を彩る
- 2) チャレンジするチカラを身につける
 - ・専門的な知識や高い意識を得る
- 3) チームワークの連携・確立
 - ・自部署内連携、多職種連携によるサービスの質の向上

1. 活動内容

理事6名 監事2名 評議員7名

理事会開催(6回開催)

定時評議員会開催(1回開催)

臨時評議員会開催(1回開催)

監事監査の実施

2. 地域における公益的な取組

買物支援サービス事業 (エリア: 大宮台1・2丁目)

令和4年度	実施日数	利用総数	協力総数	運転手総数
4月	4日	27名	4名	4名
5月	3日	20名	3名	3名
6月	5日	32名	5名	5名
7月	4日	25名	4名	4名
8月	5日	36名	5名	5名
9月	4日	31名	4名	4名
10月	4日	32名	4名	4名
11月	4日	32名	4名	4名
12月	4日	32名	4名	4名
1月	4日	28名	4名	4名
2月	5日	35名	5名	5名
3月	4日	30名	4名	4名
合計	50日	360名	50名	50名

参加者全員の検温・体調確認を行い実施。コロナの影響も和らぎ、昨年度の参加総数を上回る実績となった。次年度も地域における公益的な取り組みとして積極的に実施していきたい。

特別養護老人ホーム恵光園・ユニット型特別養護老人ホーム恵光園

【施設目標】

- ① 「想い」「らしさ」を意識したケアの提供。
 - ・お客様個々の「想い」を引き出すコミュニケーション技術を向上させ、日々の生活に「想い」を反映させる。
 - ・その人らしさへの理解と深化により実現可能性を高める。
- ② 自らを改革しながら目標を実現していく。
 - ・「介護の三原則」への理解と実践。
 - ・委員会機能を向上させ、専門知識の習得及び習得した知識を実践に活かす。
- ③ チームワークを確立し、お客様により良い生活環境を提案する。
 - ・自部署内、多職種との連携、情報共有により、お客様に適切なサービスを提供する。
 - ・多職種連携によりケアの質を向上させ、お客様+ご家族様+多職種でチームとしてお客様の生活をより良くする。
- ④ 接遇に対する意識の向上。
 - ・接遇への理解を深め、質の高いサービスを提供する。
 - ・人生の先輩であるお客様に敬意の気持ちを持って、思いやりのあるサービスを提供する。

【特別養護老人ホーム恵光園 執行報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
契約率	99.3%	97.5%	96.5%	100%	99.8%	100%
実稼働率	98.2%	94.6%	96.5%	98.2%	97.2%	98.6%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約率	99.4%	99.5%	99.9%	100%	99.3%	100%
実稼働率	97.6%	99.5%	99.9%	100%	99.3%	100%

	目標	実績
稼働率（入院含む）	98%	99.3%（実稼働 98.3%）
平均介護度		男 4.1 女 4.1
新規入居者数		10名
退所者数		11名
年間入院件数		8名
看取り対応		3名

【ユニット型特別養護老人ホーム恵光園 執行報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
契約率	97.7%	97.3%	96.8%	100%	100%	100%
実稼働率	97.7%	93.9%	95.4%	96.0%	92.7%	96.0%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約率	99.2%	99.2%	98.8%	99.2%	100%	99.7%
実稼働率	96.8%	99.2%	98.8%	99.2%	100%	99.4%

	目標	実績
稼働率（入院含む）	98%	99.0%（実稼働 97.1%）
平均介護度		男 3.4 女 3.8
新規入居者数		15 名
退所者数		13 名
年間入院件数		10 名
看取り対応		5 名

【園内研修実施報告】

開催月	内容	参加人数	開催月	内容	参加人数
4 月	認知症	78 名	10 月	吸引・酸素・救急法・経管栄養	73 名
5 月	トランス ポジショニング	78 名	11 月	感染症（コロナウイルス感染症）	72 名
6 月	感染症・褥瘡	77 名	12 月	事故防止	68 名
7 月	事故防止	76 名	1 月	身体拘束・虐待防止	56 名
8 月	身体拘束・虐待防止	74 名	3 月	ターミナルケア（2 月中止）	54 名
9 月	防災	75 名	3 月	職業倫理	53 名

【行事実施報告】

4 月	花見	10 月	ハロウィン
5 月	母の日	11 月	創立記念祭・恵光園祭
6 月	父の日・新卒課題発表	12 月	クリスマスパーティー
7 月	七夕・塗り絵大会	1 月	獅子舞・寿司パーティー
8 月		2 月	節分の豆まき
9 月	敬老会・慰問	3 月	ひな祭り

【総評】

従来型特養に関しては、年間の平均稼働率 98%を目標に入居支援にあたった。99.3%と目標は達成できた。入院を除いた実稼働率も 98.3%と目標を達成することができ、前年度よりも高い稼働率を維持することができた。平均介護度は 4.1、新規入居者は 10 名、退所者は 11 名、入院延べ日数 182 日（実人数 8 名）空床延べ日数 125 日、合計 307 日となった。4 月 5 月 6 月と引き継ぎの期間に 93 日の空きが出してしまっていたが、7 月以降は入院日数も空床日数も減り、高稼働率を維持することができた。

R4 年度のゾーニング事業によって、R5 年度からは浴室、トイレ、汚物処理室を増やすことができ、有効に利用することができたため、お客様がご自身のペースで生活できる部分が増えた。同じく R4 年度の補助事業で眠りスキャンを導入し、R5 年度から使用できるようになり、お客様の睡眠状態や健康状態の把握。排泄リズムの把握に繋げることができた。今後さらに委員会等の取り組みを通して精度を上げていきたい。看取り介護で最期を迎えた方は 3 名だった。眠りスキャンの情報によって最期をある程度予測することができたため、ご本人様とご家族様の最期を共有する助けとなった。同じく補助事業で見守り支援ベッドを導入・稼働したことで、お客様の快適性はもちろん、職員の身体的負担の軽減にも繋がった。

ユニット型特養に関しては、年間の平均稼働率 98%と目標設定し、99.0%と目標は達成した。しかし、入院を除いた実稼働率は 97.1%と目標には届かなかった。平均介護度 3.7、新規入居者は 15 名、退所者 13 名、入院延べ日数 211 日（実人数 10 名）空床延べ日数 103 日、合計 314 日となり、従来

型特養同様4月5月6月と引き継ぎの期間に75日の空きが出してしまったが、7月以降は入院日数も空床日数も減り巻き返した形となった。退所人数13名は例年と比較しても多い年となった。長年恵光園で生活されていたが最期を迎えたケースも多かった。

従来型同様、ユニット型でも眠りスキャンを数台設置し、お客様の状態把握を行った。ユニット型ではR5年度5名の方を看取り、眠りスキャンを有効活用することができた。

感染症関係ではR5年7月従来型特養で、ご入居者様1名入院先の病院の検査でコロナ陽性が判明しましたが、施設に入居されている方と職員は全員陰性。感染の拡大はなかった。

R5年9月従来型特養で、ご入居者様5名、職員1名がコロナ陽性となり、3週間ほど感染症対応を行い終息となった。R5.10ユニット型特養で、ご入居者様5名、職員3名がコロナ陽性となり感染症対応しました。2週間ほどで終息。R6年度もコロナ感染が発生していますので、引き続き感染症対策を徹底していきたい。

そよ風ユニット

① ケア方法の見直しと統一

・介助方法について各自が行っていた方法を改め、スタンダード研修で学んだ方法を軸に個々に合わせた方法をユニット内で検討し統一を図る。お互いに指摘し合い一定レベルのケアが提供できるように個々に責任を持ち伝達、指導を行う。

② 職員全員が「管理」に気を配る

- ・個々の必要な物を把握し、他部署への報告や管理を行う。
- ・車椅子の整備、清掃を行いお客様に快適な環境の提供を行う。
- ・職員個々に体調、健康管理を行う。

【総評】

- ①排泄介助は全ての職員にマンツーマンで指導し、排泄方法の再考に繋がった。口腔ケアが不十分な部分があったため、ブラッシング回数を見直しやブラッシングが難しい方のケア方法の指導を受けるなどの改善を行った。移乗について、骨折事故が1件発生してしまったが、その後介助方法や意識などが改善し、細かい内出血なども減少させることが出来た。委員会などで取り上げられた配薬や食事介助、その他の介助方法なども委員が中心となり取り組めた。一度統一出来た内容でも、時間が経つと曖昧になってしまう事もあるため、今後も継続してケア内容の確認、再周知、徹底を繰り返し行う必要がある。
- ②居室担当職員が中心となって物品管理などを行っていたが、職員毎の能力や認識の差が出てしまうことがあったが、職員間でカバーしながら滞りなく管理することが出来た。しかし、お客様の要望と職員の理解に相違が出るケースがあった。物品の依頼などで職員によって差があり、カバーする職員が負担する場面があった。清掃に関して、各職員が時間のある時に進んで清掃に行くなど、意識的に行うことが出来た。車椅子整備は、情報共有を行いながら係を中心に行っていたが、手が回らない場面などで滞ってしまうことが発生することがあった。システム化するのが理想と考えられるため構築していく。

大空ユニット

- ① スタンダード研修、園内研修の内容をきちんと理解し習得することで、全員が同じケアを提供できるように、同じレベルの知識を取得する。

・研修に参加し理解を深めるとともに研修後に職員間での確認を行い、職員同士が指導しあって全員が習得できるようにする。

- ② 多職種、ご家族との連携を図り、その人らしい生活を考え出来る限り実現する。

・ご本人様の希望を把握した上でカンファレンスを行い、ご本人様の希望に添ったケアを実現する。

・ご本人様の希望を聞くには信頼関係が大切であることを理解し、信頼関係を築けるケア・対応・接遇を行い、積極的にコミュニケーションを図る。

【総評】

委員会に参加しているメンバーは委員会内容を他の職員に発信し、全員が周知できるようにすることができた。研修は人員の関係で研修に参加できる人数が限られた。参加した職員も内容の理解に対する状況から他者への発信までには行き届かなかった。

毎月カンファレンスを開催し、ご利用者様1人1人現在の様子や本人の希望などを聞き出し、カンファレンスの議題にあげることはできていたが、居室担当ではなく、一部の職員からの提案が多かった。居室担当等みんなの意見を聞いてユニット内全体で考えていくことが課題。ただ、要望を聞いてレクを開催し、日々のリハビリ体操、カラオケスペース作成などお客様自身がやりたい事を叶えることができたところも多く見られた。職員については、職員の定着と育成が不十分と感じることがあった。また、業務以外の仕事でリーダー自身が現場を抜けることが多くあり、ユニット内の状況の把握や業務管理など一部の職員への負担となってしまった。

こすもすユニット

【ユニット目標】

① 接遇への意識向上

・人生の先輩であり、お客様でもあるご入居者様へ適切な対応が行えているか確認し、接遇の意識を高めたケアを実践していく。

② 居室担当制とユニット内整理整頓等、環境整備の実施。

・居室内清掃の再周知。また居室担当が気づかなかった部分を他スタッフフォローする等の連携に努める。

③ 介護技術の向上化

・スタンダード化された介護技術がスタッフ間で統一して行えているか再度確認していく。

【総評】

① 職員全員で接遇意識を持ち、特に目上の立場であるお客様に対する言葉遣いなど適切な対応が出来たと感じる。

② 職員が欠員した状況は何度もあり、環境整備を行う時間を十分に取れなかった事実があるが、その中で居室内、リビング内の環境整備は進んだ。居室担当制については欠員や入居の入れ替わりも激しかった部分で追いきれていなかった。次年度改めて整備していきたい。

③ 研修には可能な限り参加して、自身の技術向上に各自努めていた。但し、やはり②と同じ理由で研修に時間を割く余裕が十分ではなかったのも事実であった。

④

さくらユニット

【ユニット目標】

① お客様1人1人とコミュニケーションをこまめにする。

・コミュニケーションを取ることでお客様との信頼関係を作り、日々の生活のニーズを聞き出し易くする。

・お客様の日々の生活のニーズに合った対応と情報を拾い出し他部署との連携を取り迅速な対応の統一を行う。

② お客様の暮らしの継続が行える様に、安全かつ生活し易い環境作りを行う。

・過去の事故報告の情報を繰り返し共有し、事故（服薬ミスを含め）を減少させ、安全に暮らしの継続が行える環境作りを行う。

③ 居室担当制を活かし、担当であることに責任感を持つ。

・お客様との信頼関係を深く築き、お客様の状態の変化やニーズに対応し、他部署との連携を取り迅速な対応の統一を行う。

・居室の整理整頓（環境作り）・車椅子の点検・各書類の管理等を行う。

【総評】

① 継続している職員は、更にコミュニケーションを取り信頼関係作りを行っていた。しかし、途中から 移動してきた職員は戸惑いもあり、コミュニケーションを取り難かった。「この様にしたら、もっと話を引き出せる。」等の具体的なアドバイスをして指導を行った。居室担当も変わったため、一部のお客様のニーズを聞き出すことが困難であった。他部署との連携（特に医務）は、迅速に行えていた。

② 同じお客様の皮下出血・表皮剥離が多く事故報告に上がっていた。職員が原因の事故もあったが、お客様自身での事故もあった。お客様の本意を理解し、再発防止に取り組んで行く。

また、ヒヤリハットがほとんど同じお客様で上がっている。事故を起こす前に、お客様が何故その行動を取るのかを掘り下げて、対策をユニットミーティングで行い検討して行く課題が残った。

③ 居室担当制を活かしていた所もあったが、一部の職員が気を配り行っていた部分もあり、全体的に見ると活かしていない部分が多かった。職員の異動もあり、お客様の対応の統一が纏まっていない所があるため、ユニットミーティングでお客様の本意が具体的にどの様なことなのかを居室担当で聞き出し、他部署を含め皆で対応の統一を図っていく。

居室の整理整頓は担当者で行っていたが、車椅子の点検や各書類の管理は、一部職員で行っていた。ルールを決めシステム化していく。

なのはなユニット

【ユニット目標】

① 接遇を強く意識する。特に言葉遣いを注意する。

・コミュニケーションをとれるご利用者様が多いため、言葉遣いについては十分に意識しなければならない。丁寧でも柔らかい、距離も近く感じる言葉遣いを理想としたい。

② 個別性を意識したケアの提供

・今よりさらに多くの情報を集め、個々のご利用者様に提供できるケアやサービスを見つける。施設で集団の場であることは前提としてあるが、可能な限り個々のニーズに対応できるよう、必要であれば職員の勤務時間等の変更も検討。

③ 新人職員の育成

・新卒1名配属予定であるため、担当者だけではなく全員が先輩として恥ずかしくない勤務態度で、全員で新人職員を育成していく。スタンダード研修で学んだ知識・技術は間違いなく習得し、今後も研鑽を積む。

【総評】

① 言葉遣いは常に意識し、敬語ベースを心掛けることで改善はしてきたと感じる。但し、時折馴れ馴れしい言葉遣いになるケースがどの職員にも見られたため、余所余所しくなり過ぎず、バランスを考えながら敬意を持って接することを次年度も継続していきたい。

- ② 職員の勤務時間変更までには至らなかったが、お客様の要望に合わせて日々の業務を臨機応変に変えることは各自できるようになったと感じる。お客様の ADL も当然変化しており、都度柔軟に対応できていたと思う。情報収集や共有の場としてのカンファレンスの実施が他部署と比べて滞っていたので、次年度は定期的開催できるような仕組みを構築する。
- ③ 新卒を迎え入れて 1 年間、どの職員も真摯に育成に取り組んでくれたと思う。結果として新卒職員もしっかりと自立し、今やユニットに欠かせない存在となった。先輩職員の指導やフォローあつての成果だと間違いなく言える部分なので、全職員を評価したいと思う。次年度も新たな新卒職員を迎えることになっているので、今年度同様しっかりと成果を出せるように全員で一丸となって取り組んでいきたいと思う。

短期入所生活介護事業所恵光園・ユニット型短期入所生活介護事業所恵光園

【部署目標】

- ① 年間稼働率 95% を目標に稼働率の向上と運営の安定を図る
- ② ご利用者様及びご家族様の満足度向上に努める
- ③ 多職種との報告、連絡、相談を徹底し、心身の状況、本人、家族の要望等を確認し現在有する機能に応じた適切なサービスを提供する
- ④ 感染症の予防に努める
- ⑤ 介護保険法及び関係各法令の遵守
- ⑥ 防災対策の取り組み
- ⑦ ユニットケアの推進

【短期入所生活介護事業所恵光園 執行報告】

- 稼働率 98.8% (前年度：94.7%) 延べ 7,230 人利用 (前年度：6916 人利用)
- 男女比 (男性 30%：女性 70%)
- 平均介護度 3.4 (男性 3.1：女性 3.5)
- 新規利用者数 10 名 (LS 9 名：SS 1 名)
- 退所利用者数 10 名 (施設入所：5 名 看取り介護：3 名 入院：2 名)
- 特養空所利用数 5 日/年間

【ユニット型短期入所生活介護事業所恵光園 執行報告】

- 稼働率 96.5% (前年度：97.0%) 延べ 3,531 人利用 (前年度：3,542 人利用)
- 男女比 (男性 30%：女性 70%)
- 平均介護度 3.4 (男性 2.9：女性 3.6)
- 新規利用者数 17 名 (LS 8 名：SS 9 名)
- 退所利用者数 9 名 (施設入所：7 名 看取り介護：1 名 入院：1 名)
- 特養空所利用数 11 日/年間

【総評】

従来型短期については、令和 5 年度も新型コロナウイルスの感染対策に注力してきたが、R6 年 1 月にクラスター発生。海ユニットのご利用者様は全員 (22 名長期 2 名含む) が感染した。罹患中の入院などの重症者が出なかったのは、看護・介護のチーム力にあったと思われる。また、コロナ罹患後のフレイルによる心身の低下がみられたため、ご家族様との面会の再開や少人数での活動を徐々に再開していくことで、心身の健康を取り戻していく活動を行っている。別館短期では居室内での面会が可能となったことで、より一層新型コロナ感染対策に注力したが、R5 年 10 月ご利用者様 5 名 (長期ご利用者様 1 名含む) が罹患した。

従来型、ユニット型ともに入所支援については、特養相談員と連携・情報の共有化を図り、短期入所者のスムーズな受け入れを強化したが、他施設・病院等でもクラスターが発生していた兼ね合いで、入所の調整がスムーズにいかないことが多かったが、事前面談やケアマネージャー、ソーシャルワーカーとの連携を密に図り、情報収集を柔軟に対応する事で空床ラグを減らすことができ、目標稼働率を達成することができた。また、ご利用者様の状態変化に伴い、介護度の見直しを都度実施した。退所については、特養入所以外でも短期入所利用中に看取りを希望される方が増えてきており、本館ショートで3名、別館ショートで1名の方を看取る形となった。ここ最近は入所時から、介護度が高く医療ニーズが高い方が年々増加傾向である。嘱託医と連携を図りながら、ご本人様・ご家族様の意向に沿いながら、心身の安定を図り、可能な限り住み慣れた場所で生活を継続できるよう今後も対応していく。

海ユニット

【ユニット目標】

- ① 意味のある介護の提供。
 - ・何故その介護を提供しているのか、理由や根拠を理解し、適切な介護を提供する。
 - ・日々提供している介護内容を見直し、お客様の生活の質の向上や業務改善に活かす。
 - ・研修や委員会を通して介護の知識や技術を向上させ、介護の質の向上に努める。
- ② お客様主体の介護の展開。
 - ・お客様の想いを汲み取り、その方が何を必要としているのか把握することに努める。
 - ・個々のお客様それぞれに必要な支援内容を再確認し、介護並びに業務の改善に活かす。
 - ・お客様が生きがいを感じながら生活出来る環境を目指す。
- ③ 相談し合える環境の構築。
 - ・ユニット内でより活発に意見を提案し合える環境を整える。
 - ・職員間の悩みを共有し、全体で解決できるような職場を目指す。
 - ・他部署とも協力して、よりお客様に手厚く支援が出来るよう環境を整える。

【総評】

- ① 園内研修に参加できた職員と参加できなかった職員に差があった。少人数でもフロア業務が完遂できるような体制構築が出来れば良かったが、難しい場面が多く、意義のある研修内容をユニットに浸透させる事は満足に出来なかった。質の向上を図るにあたって有効な「研修参加」をもう少し出来れば良かったと感じた。介護の根拠理解について、具体的に話し合う機会もなかなか取れなかったが、御看取りケアが多くなった場面では「意味」と「質」について意見を聞く場面が多くあり、見直しも出来た。
- ② 基本的には「お客様主体」で対応が出来ていた。意見や希望が多いフロアでもあるが、上記にも記したとおり御看取り対応が活性化した事と、体調不良のお客様ベースの環境が自然と出来てきていた。離床時間をフロアの都合に合わせず、また、入浴や食事・水分もお客様が可能な時間に対応する等、個人個人が意見を出した場面が多かった。レクの減少が後半から（年明けぐらいから）はみられたため、改善点。
- ③ 職員間は比較的良好であった。職員間のトラブルも無く、協力関係も自然と築けていった。愚痴と決めつけず、改善点として受け取る事が大事であると捉え対応した。

ひまわりユニット

【ユニット目標】

① 技術、考え方の統一

- ・スタンダード研修等で習得した知識、技術を風化させず、継続して実践していく。
- ・各委員会メンバーがユニット職員へ委員会の内容を確実に発信していく。
- ・介護内容一つ一つの根拠を、ユニット職員が理解できている。
- ・介護内容一つ一つの根拠を理解した上で、ユニット職員が同じ事を他者に伝えられる。

② 住みよい環境作り

- ・整理、整頓、清潔、清掃が行き届いている。
- ・各委員会の内容を把握した上で、その都度話合い、改善に努める。
- ・居室担当をより機能させ、ご利用者様の想いを形にしていく。
- ・ご利用者様の住まいにお邪魔しているという感覚を忘れず、一つ一つ丁寧な対応を行う。

【総評】

① 「園内研修やスタンダード研修で習った事をヒントに」などと言い、自らご利用者様に対する支援方法を提案する職員が増えた。オムツの当て方や、トランス等の技術面では、徐々に形が崩れていってしまう為、その都度根拠を伝えたくて修正していく事が出来た。委員会に対しては、年度末にむかうにつれ今回の内容は何だったかと職員同士で聞き合うようになっていった。

② 一時期自分を含めた職員の長期休養や、コロナ等により整理整頓、清掃が行き届かなかった 期間があった。またリネンの交換や、清掃、洗濯等の業務を行う職員に偏りが出来てしまった為、改めて担当の確認を行い、偏りのないようにしていく。ご利用者様からの意見を反映させたレクを行う事ができていたが、意見が聞けるご利用者様に偏ってしまった為、今後ご利用者様の思いを日々のコミュニケーションから聞き出していきたい。

5年度も新卒を受け入れ、新卒へ業務の伝え方や、一つの業務に対して統一した事を伝える事が出来なかった。また職員の長期休養が続いた事で、わからない事を聞く事が出来ず、先輩職員の行動を見てまねて行ってきたと年度末の面談の際に 5年度新卒から話があった。令和6年度はベトナム人職員を受け入れる為、既存職員と業務を改めて統一し、同じ事を伝えていけるように改善していきたいと思う。

医務

【部署目標】

- ① 多職種連携を実践し、情報共有を行う事で異常の早期発見に努める。往診医との連携により速やかな治療を行い、苦痛の軽減を図る。
- ② お客様とそのご家族一人一人の気持ちに寄り添い、看護師の専門的知識の基づき、温かな看護を実践する。
- ③ 往診医や薬局との連携により、内服薬の適切な管理を行う。

【処置関連】

	褥瘡処置	軟膏処置	包帯交換	バルン留置管理	ストマ管理	経管栄養	BSチェック	インスリン注射
合計	2526	23203	11999	2836	51	1128	96	66

【回診・受診関連】

	回診 (人)	受診(千城台クリニック)	受診(他院)	救急搬送	入院
合計	1792	159	255	24	30

【総評】

- ・入院、救急搬送(日中夜間含める)数が去年度より減少した。お客様に体調不良が見られた際、早期の対応を行い大事に至らないよう対応しているためであるが、提携病院の受診や他院への受診が多く対応頻度が増えている。今後は回診での対応を充実させ、受診を低減できるよう取り組む。しかしそれは早期発見、早期治療の観点からは遠ざかることも考えられる。今後大きな課題である。
- ・長らく続いていた疥癬は R5.3 以降発症なく経過している。原因として考えられるものの対応を継続した結果と思われる。今後も発症ないように多職種と連携を取りながら感染対策・環境整備に努めていく。
- ・新型コロナについては、令和5年度園内にコロナ4回発生。これまでの経験を活かし拡散を最小限に留めてきたが、R6.2 発生は海ユニット全員が罹患した。ユニットの特性上拡散しやすい環境ではあったが、日ごろからの感染対策が重要であることを強く感じた。感染委員会を通して感染させない・拡げないを園の課題として浸透させるための働きかけに尽力していきたい。
- ・現在看取り介護対応者19名。令和5年度も多くの方を看取ることができた。医務スタッフも今まで以上にケアに関わり、より良い看取りに努めていけたらと考える。
- ・新しいスタッフ数名を迎えた。これまでのスタッフと共にそれぞれの得意分野を活かし、リレーションシップを念頭に多職種とも連携を取りながら、よりよい看護の提供に努めていきたい。

栄養

【部署目標】

お客様の栄養管理の実施

- ・お客様、個々の状況を把握し、個々の健康状態に合わせた栄養ケア計画を作成。日々の委員会やカンファレンスを利用し情報の共有を行い、改善すべき課題を明確にすることで、多職種が協力して栄養管理を行えるようにしていく。

献立委員会の内容の充実

- ・職員の食に関する知識・意識を高める議題を集め、委員全員が発言できる委員会にしていく。

食事サービスの充実

- ・嗜好調査などを行い、お客様の希望に合った食事の提供。また季節のものや行事食、郷土食など変化のある献立を取り入れ、食事を楽しむことができるようにします。

【総評】

お客様の栄養管理の実施

多職種と連携を図り、体重の増減、食事摂取量、血液検査の結果などを見ていき、お客様の栄養状態を把握。お客様1人1人の健康状態に合わせた栄養ケア計画を作成。お客様ごとの栄養ケア計画の進捗状況を定期的に評価し、必要に応じて計画の見直しを図る。食事形態の変更、栄養補助食品の検討等栄養改善の取り組みを行ったが、栄養管理を完全に行うことができず、対応が遅くなること

もあった。介護員、医務との連携を図りカンファレンス等で情報共有を行い、早めの対応を心掛けていきたい。

献立委員会の内容の充実

毎月、栄養ケアマネジメント、低栄養などテーマに沿った内容の話をし、事例検討も2回行った。介護員が興味を持てる内容の委員会構成を行った。介護員に必要な栄養に関するテーマで話を行ったが内容が難しかったなど意見を頂いた。その反省を含めて、令和6年度は介護員の栄養知識を高めていき、業務に活かしてもらえよう繋げていきたい。

食事サービスの充実

毎月、選択食の聞き取りでいただいた、リクエストメニューを献立に組み込み、出来るだけ、お客様が食べたいものを提供するよう心掛けた。少しでも季節感を味わって頂けるよう行事食と御馳走の日は、毎月2回お客様の好きな刺身、天ぷらを中心に季節の食材を入れ提供し、郷土食や世界の料理など変化のある献立を取り入れ、楽しんで頂けるよう工夫した。今後もお客様に満足いただけるような食事内容を考えていきたい。

デイサービスセンター恵光園

【部署目標】

- ① 年間平均稼働率72%を目標とし、感染対策・災害対策をしっかり行い、安定した収入を確保することがお客様及び職員のQOL向上に繋がることを意識する。
- ② お客様、ご家族のご意向に基づき、お客様の個別性を大切にし、在宅生活が継続出来るようサービスを提供します。
- ③ 職員は、常に報告・連絡・相談・確認により職種間の連携を図り、専門的知識向上を目指し、接客への理解を深め、効率的に事業を実践します。
- ④ 和顔愛語（なごやかな表情と親愛の情がこもった言葉づかい、親しみやすく暖かい態度）の姿勢により、安心感・信頼感を持って頂けるサービスを提供します。

【執行報告】

○定員1日25名 ○営業日数311日 ○年間稼働率71.1% ○年間延べ、ご利用者数 5531人 ○平均介護度 2 ○新規契約数 13名 ○利用中止者数 18名

	年間行事	月間・週間行事
4月	お花見（施設敷地内）	セレクトランチ ティーパーティー
5月	母の日（カーネーション）・菖蒲湯（入浴） 鯉のぼり（施設敷地内）	
6月	父の日（プレゼント）	
7月	七夕まつり（短冊に願いを記入）	
8月	夏祭り（盆踊り・ゲーム）	
9月	敬老会（表彰・プレゼント）	
10月	運動会（小規模で開催）	
11月	映画鑑賞（プロジェクター投影）	
12月	クリスマス会（ハンドベル・プレゼント）、餅つき	
1月	正月あそび	
2月	節分（鬼退治）	
3月	ひなまつり（ひな人形飾り付け、展示）	

【総評】

コロナウイルスが感染症法上5類移行したが、移行前と同程度の感染対策を行いながらの運営となった為、利用を控えて頂かなければいけないような状況が今年度も続いた。前年度に比べ年間稼働率、収入が下がってしまった要因として、入院や施設入所にて利用中止者が例年より相次いだこと、年度後半より新規獲得ができなかったことが挙げられる。体調悪化やADL低下が急激に進んだ方が多く、新規獲得（営業活動）が対応しきれなかった。また、12月以降風邪症状、コロナウイルスに関する体調不良を理由としキャンセル率が高く推移してしまったことも要因の一つと考えられる。

業務改善としてデイサービス会議の実施、情報共有の徹底、利用満足度向上の為にレクの充実化を行った。情報共有の方法として、朝礼の議事録を作成、送迎中に発生した情報の報告・共有の徹底を行った。特に朝礼の議事録は、朝礼に参加出来ない職員や休みの日の情報を取り入れられるようになり、前年度よりケアの統一化や意識統一、職員間での対応方法の話し合いの機会を多く持つことができた。レクの充実化は在宅研修に参加し、レクの内容、取り組み方の改善を行った。お客様の意向を取り入れたレクを実施する回数も増え、お客様からも好評を得ている。職員が安定しない中、大きな事故発生なく営業することができた。

居宅介護支援事業所恵光園

【年間目標】

- ・ご利用者様、ご家族様の気持ちに寄り添い、より良いサービスを提供できるよう努める
- ・居宅全体の利用者契約件数月94件（要支援者含）を目標に、積極的に新規利用者を受け入れていく（R6.年1月現在 月90件 要支援者含）その為千葉県あんしんケアセンターや病院、老人保健施設等との連携を図る
- ・内部、外部の研修に積極的に参加し、知識・技術の向上に努める

【執行報告】

請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護件数	80	81	77	79	83	80	81	78	78	76	79	82	954
予防件数	13	13.5	13.5	13	13	12.5	14	14	13	14	15	15	163.5
介護・予防合計	93	94.5	90.5	92	96	92.5	95	92	91	90	94	97	1118
稼働率 (%)	79.4	80.7	77.3	78.6	82.0	79.0	81.1	78.6	77.7	76.9	80.3	82.9	79.6
認定調査外部 (4840円/件)	4	1	4	4	1	2	1	2	1	8	5	1	34

【総評】

年間の請求件数トータル数としては、要介護が令和4年度939件、令和5年度954件。15件の増となっている。要支援は令和4年度124件、令和5年度163.5件で要介護、要支援の合計としては、令和4年度は1082件、令和5年度1118件と36件の増となったが目標の数までには達することが出来なかった。

千葉県あんしんケアセンターや病院、他事業所からの依頼は増えているが、終了になった件数が令和5年度25件となり、目標達成に至らなかった。引き続き千葉県あんしんケアセンター等にこまめに訪問し、繋がりを持ち件数を増やせるようにしていきたい。

特定事業所集中減算は、1年通して減算はなかった為書類を作成し保管している。

研修については、コロナウイルス感染予防の為に開催する件数が少ない。ズームでの開催だけでなく参集での研修も開催されてきており、今後研修が増えてくると思われるので積極的に参加できるようにしたい。

ケアハウス恵光園

【年間目標】

- ① ご入居様の生活の場として安心して過ごせる環境作りを目指し、ニーズに対し速やかに対応していく。
- ② ご家族様や地域との交流が出来ない為、近況報告（すずめ通信等）をし、協力・理解を一層深める。
- ③ 引き続き、新型コロナウイルス感染防止をしつつ、安全な外出が出来るよう懇談会などで新たなルールを設けご入居者様への説明と同意を得て、ケアハウス全体のQOLの向上をしていく。
- ④ 職員の都合（人事異動や休暇）でクラブ活動や美化活動に不備が出ないように努める。（レクやクラブ活動の強化）

【総評】

令和5年度は新規入居4名、退去4名、入院延べ人数3名という動きだった。入居されている方15名中5名が自立、10名が介護認定を受けている状況となっている。感染症については、2月にコロナ感染したご入居者様が1名いたが、そこから感染が拡大することはなかった。感染症対策としてボランティアや近隣住民・施設との交流はできなかったが、令和5年5月から面会や外出の制限を緩和し、ご家族様との貴重な時間を過ごして頂いた。季節行事、クラブ活動等、外出の機会を増やしたことでQOLの向上に努めた。ケアハウス内の環境整備は出来ていたが、施設周囲の環境美化について定期的実施することができなかった。定期的に広報紙を発行して、ご家族様に送付し活動内容の報告を行う事が出来た。また、関係機関との情報共有を充実させ、必要なサービス利用等に繋げていくことでケアハウスでの生活継続に繋げることができた。

今後もご入居者様のQOL向上に努め、介護認定を受けていても生活し続けられるように日々の生活を充実させていける活動に取り組んでいきたい。

感染症・褥瘡予防委員会

【年間目標】

- ① 感染症の予防と早期収束
 - ・委員会から適切な予防方法の発信を行う。
 - ・各感染症発生時、感染症拡大を予防するため、初期対応を徹底できるように周知する。
 - ・各感染症の症状、対応策に対する理解（梅毒、緑膿菌、ESBL等）を深める。
- ② 褥瘡予防
 - ・褥瘡のメカニズムへの理解を深める。
 - ・適切なポジショニング知識の習得、発信を行う。

【総評】

- ① ガウンテクニックや手洗い等現場で実践出来る内容を中心に行った。実際に体験してもらう事でポイントを伝える事が出来た。委員以外の職員への発信が今後の課題。定期的にコロナウイルスや職員の濃厚接触者が発生する中、準備する物品や、ごみの捨て方、ガウンの脱ぎ方、物品の設置場所等ユニットで把握できていなかったが、他ユニット同士、多職種が協力し合って準備や注意事項を伝える事が出来た。
- ② 褥瘡のご利用者様が増えてしまった。実際に自身でポジショニングを体験してもらい、不適切なポジショニングを体験してもらう事でご利用者様の辛さを身体で感じてもらった事はとても良かった。安楽な体勢をとる為には沢山のクッションが必要で、適切な量、適切な場所にあたってないと返って褥瘡のリスクを上げてしまう事を理解してもらったいい機会になったと思う。適切

なポジショニングや、褥瘡のメカニズムを発信し、理解してもらえた事で褥瘡が治った方もいたが、新たに褥瘡となったご利用者様が多くいた為、目標であった予防は十分に行えなかった。ご利用者様一人一人褥瘡となる原因を探り、対処出来るようにしていきたい。

身体拘束廃止・虐待防止委員会

【年間目標】

- ① 虐待・身体拘束に対する知識を高め虐待・身体拘束の防止を図る
 - ・委員会に参加する職員の虐待・身体拘束に対する知識の底上げを行い各職員が自部署に持ち帰り周知する。
 - ・身体拘束を行わなくても安全を確保できる方法・介護を議論する
 - ・労働衛生委員会と協力し、職員が精神的に安定し勤務できるよう職場環境を整備する
- ② 接遇面の向上を図り、ご利用者様に安心した生活を提供する
 - ・昨年度に引き続き委員会で接遇面を取り上げ、虐待の入口となる不適切なケアを防止する

【総評】

各部署で虐待の入り口となる接遇面の向上・改善と各月でテーマを決めて講義（接遇・虐待・拘束・認知症など）を行い、各委員の理解度を把握するために各月で小テストを実施、理解度は委員により差があった。委員会に対する意識の差は課題として残った。

園内研修は8月に接遇、1月に身体拘束をテーマに実施。どちらも講義と動画を用いたグループワークを行い、接遇の観点から改善できる点を話し合い、拘束の回ではお客様に対してどのように対応すれば言葉や薬物を用いた拘束を行わずに介護を行えるか話し合った。

絶対に虐待を起こしてはいけないという意識を委員長・委員を中心に施設に浸透させていきたい。

事故防止委員会

【年間目標】

- ① 危険個所点検表を使い、区分1～5の全体的な事故を前年度より減らす。
- ② 危険個所点検表を使い文書化することで、どこにどんな危険があるのかを把握し視野を広げる。
- ③ 危険個所を知る事で事故を起こさなくていいように危険因子を減らしていく。

【総評】

危険個所点検表を使って行く予定だったが、骨折の事故など重大な事故が多く、年度途中でヒヤリハットを重視するよう委員会を方向修正した。園内研修ではハインリッヒの法則を内容として実施、写真を使った危険予測のグループワークを行った。2回目の園内研修では事故が起きてしまった場合にどういった対策があるのかを説明し、事故の事例についてご利用者様側の原因、介護職側の原因、環境側の原因についてグループワークを行った。ヒヤリハットを重視してから委員会内容をヒヤリハットメインに行ったが、当初ヒヤリハットの意識が高かったが、徐々に提出数が減った。原因について追及していくことが課題。区分1～5までの事故の件数を前年度より減らすという点は、ほぼ横ばいで件数に変化がなかった。転倒や誤薬はご利用者様の死期を早めたり、人生を変えてしまうことを伝えてきたが、事故を減らすことはできなかった。事故への意識を向上させ、事故の件数を減らして1人でも多くのご利用者様が安心、安全に暮らせるよう引き続き取り組んでいきたい。

行事委員会

【年間目標】

ご入居様がメリハリのある充実した生活を送れるよう四季を感じる行事を立案・実行し、ご入居者様の生活の質が高まるよう努めていくとともに、本館別館とのコミュニケーションも図りながら、チーム恵光園として行事作りに努めていく。

【総評】

各部署に、ご入居者様の生活の質が高まるよう、身体機能向上レク（嚙下体操、下半身強化転倒防止レク）を立案。四季を感じて頂くよう毎月の行事（獅子舞・節分の豆まきなど）の大切さを伝えた。11月に開催された恵光園祭は、職員同士のコミュニケーションを図りながら施設全体で準備を進められた。感染症対策を配慮した祭ではあったが、職員の絆が深まり、入居者様にも喜んで頂けた。恵光園祭は、情報の共有が完全ではなく、進みが悪いところなどがあったが、職員が協力し成功させることができた。

防災委員会

【年間目標】

- ① 災害時に防災委員を中心として対応できるようにする。
 - ・委員会で想定できる災害について、災害内容別に対応内容の検討と確認を行い、防災知識を身に付ける。
- ② 防災マニュアルの見直し、職員が誰でもわかるような災害時の対応手順の作成と周知を行う。
- ③ 防災委員以外（新人職員含め）の職員に対して、防災意識を向上させるための教育と発信を行う。

【総評】

- ① 災害時の対応方法、車いす・担架の作り方や搬送方法（階段・平地）を行い、火災発生時での煙の危険性や火災図上訓練などを行った。
園内研修で火災図上訓練を行う予定でしたが、コロナ対応中で中止となってしまった。
- ② 防災マニュアルに関しては、ほとんど手を付けられませんでした但对応手順に関しては、各ユニットに配布し委員に説明した。マニュアルに関しては、来年度に引き継ぐ。
- ③ 新人、委員以外の職員に対しての当施設の防災設備の説明、園内研修が出来なかったため未達成、委員会では防災設備の説明を行った。8月には地震体験車に来てもらい出来るだけ多くの職員に参加してもらい地震を体験してもらった。
各取り組みを通して、委員の防災に対する意識は向上した。今後委員以外の職員の意識を向上させていくことが課題となる。

献立委員会

【年間目標】

- ① 多職種で連携し入居者様個々の栄養改善に取り組んで行く。
- ② 職員の食に関する知識・意識を高める議題を集め、委員全員が発言できる委員会にしていく。

【総評】

- ① 多職種と連携を図り、体重の増減、食事摂取量、血液検査の結果、褥瘡の有無などを見ていき、利用者様の栄養状態を把握。栄養補助食品の検討、嗜好調査、薬の見直し、医師に相談するなど栄養改善の取り組みを行った。日々の委員会やカンファレンスを利用し情報の共有を行い、改善すべき課題を明確にすることで、多職種が協力して栄養管理を行えるように取り組んだ。今後も

- 介護員、医務、相談員と連携を図り、利用者様の状態を細かく把握できるよう動いていきたい。
- ② 今年度の献立委員会は年間で議題を決め、介護現場で役立つ内容にしたが、内容が難しい、記憶に残らなかったなどの意見を頂いた。事例検討も2つ行い、日頃のカンファレンスに活かしてもらいたかったが、結びつかず。分かりやすく伝えることが課題として残った。最新の栄養に関する情報や試食会をもう少し行いたかったが、予定していた時期が感染症発症のため中止になり、なかなか思うようには進まなかった。次年度はその部分も配慮し委員会に参加したい。

生活向上委員会

【年間目標】

- ① ご利用者様と積極的にコミュニケーションを取り1人1人の想いを引き出し再度、アセスメントしその方にあったケアを行う。
- ② 専門職としての知識、技術を学びご利用者様が快適な暮らしを送れるよう支援する。

【総評】

コロナの影響で毎月委員会を開催できない事も多くあり、目標を達成する事は出来なかった。排泄については、時間をかけオムツの当て方のテストや業者の協力を得て委員会メンバーに眠りスキヤンの勉強会を開催した。職員への知識としては良い成果となった。食事に関してもユニットで工夫してもらい、毎日の食事を楽しんで頂くための方法を考えてお品書きの作成やランチョンマットの設置等、とても良い案が出て施設全体でも来年度の取り組みになった事は良い成果と言える。引き続き生活の質を向上させるために取り組んでいきたい。

労働衛生委員会

【年間目標】

- ① 恵光園に勤務する職員が安全に健康に働ける快適な職場づくり。
 - ・ 職員から意見を広く募り、必要な対策を調査・審議し、事業者に対してその結果・意見を述べる場としてこの委員会の役割を確立させる。
 - ・ 季節性の疾病や、ストレス等、安全・健康を蝕むリスクのあるものに対して、委員会として予防を呼びかけ発信していく。
- ② 5S活動の促進
 - ・ 昨年度に引き続き、5S活動を促していく。自身を整えることでより安全で健康に仕事に臨むことが出来る。

【総評】

- ① 一年を通して主に勉強会という形で職員の労働環境が向上するような内容で委員会を行ってきたが、昨年度は例年よりも退職者が目立ち結果としては成果がでたとは言いがたい。但し、管理者、特に理事長が委員会に参加され議題に対する見解や説明を加えていただけただけで、これまでとは状況が変わった部分も少なくはない。次年度以降も継続していくことで、職員が安全で健康に働ける快適な職場環境を実現できると思う。
- ② 各部署で委員会メンバーを中心に年間通して5s活動を継続できたと思う。年度末の部署報告では一定の成果は確認できた。反省としては、毎月の委員会での報告等の時間を十分に設けられなかった点が挙げられる。改善していきたい。